

わが

夢と希望の持てる、ふるさと喜多方 わくわくする喜多方

いっただって、
喜びが多い方が良い

喜多方市は、日本百名山の飯豊山・磐梯山の頂を望む山麓に囲まれ、会津盆地北部にあるため「北方(きたかた)」と呼ばれていました。明治に「喜びが多い」との意味を込め、「喜多方」と名付けられました。

自然と息づく文化が、
今のまちをつくる



蔵のまち並み

本年3月、文化庁が発表した「1000年フード宣言」食文化あふれる国・日本」において、喜多方ラーメンが「近代の1000年フード」、山都そばをはじめ、そばに関する資料を展示している飯豊とそばの里センターが「食文化

ミュージアム」にそれぞれ認定されました。

これは、先人がさまざまな努力で今に生活をつないでくれた証しだと考えています。

本市は、夏は高温多湿で、冬は寒冷かつ特別豪雪地帯で大雪に見舞われます。先人はこの自然の厳しさに畏敬の念を持って、平穩無事と五穀豊穡を願う伝統行事を催し、おいしい農作物を収穫してきました。翻って、山に積もった雪が解け伏流水となり、川は山のミネラルを平地に流すことから、肥沃な大地、おいしい水、寒暖の差の三拍子がそろっている場所です。農家の人々は、農作物を交換するため定期的に市を開くようになります。市の場所に専業で店舗を構える商人が出てきました。まちでは建物が密集し、明治の大火で一帯



喜多方ラーメン

が消失しますが、焼け野原に残った蔵が再認識され、蔵を建てることと商人から流行します。「男40にして蔵を建てられないのは一人前の男ではない」とも言われ、教えとして広まった藤樹学や近江商人の思想も影響し、社会に役立つ商売の利益で蔵を建てることによりとされ、蔵が商人以外にも広がります。用途は生活密着で、商人は

店蔵、職人は作業蔵、農家は保管蔵として使います。温度や湿度の調整作用もあり、酒やみその醸造蔵や住居蔵、屋敷蔵にもなります。商人のまち、蔵のまちの由縁です。ラーメンがおいしいのも、阿賀川舟運から商人が仕入れた煮干し、昆布、かつお節、おいしい水と農産物、醸造蔵で作られた酒、しょうゆ、みそがあったからです。また、作付面積が本州1位のそばも、素材と水が味の決め手です。まちには自然と文化が息づいているのです。

温故創新
地域の宝を生かす

私は、先人の努力から学び、文化を守りながら新しいまちをつくる考えで市政を担っています。蔵のまち並みの小田付地区は、重要伝統的建造物群保存地区として文化庁から選定されるなど、文化がブランドとして新たな活路ができてきていると実感しています。本年7月に、中国宿遷市と友好



中国宿遷市との友好都市協定締結

都市協定を締結しました。米国ウィルソンビル市に次ぐ二つ目の海外協定です。経済・文化・観光の相互交流により、国際理解とグローバル教育に生かしていきたいと考えています。インバウンド復活に向けて、案内看板の多言語表記などの取り組みも進めています。

また、本市の自然条件を生かし、日本で先駆けてカーボンニュートラルを達成したいと思っています。地域マイクログリッドと再生可能エネルギーの導入を実現するための調査をしています。

農業では、アスパラガスなどの高収益作物を安定的に収穫できるよう、ハウス栽培への支援もしています。

米は、首都圏の米屋で手頃で食味が良いと評価を受けていますが、原発事故の風評でスーパーの棚中央から外れてしまいました。再び棚の中央の銘柄となるようトップセールスもしています。

新たなブランドの素養もあります。本年6月、福島大学などの研

究チームが、全国で流通している菌床栽培なめこの遺伝情報を調べたところ、約60年前に本市山都地区の野生なめこから採取された菌に由来するものであることが明らかとなりました。流通シェアは99%です。本市の林産物のブランド化や林業の活性化につなげていきたいと思っています。

畜産も盛んです。「ふくしま会津牛」は、消費者の認知度は低いものの、市場では高値で取引されています。この牛肉を地元でも消費しようと、飲食店で新メニューを開発しています。高付加価値のメニューを消費者へPRし、「おいしい喜多方」のイメージ向上を目指しています。

現代社会の在り方

新型コロナウイルス感染症の拡大により、本市でも甚大な影響を受けている一方で、現代社会の在り方に大きな問題が提起されていると思います。

テレワークやサテライトオフィスなど、新しい働き方・暮らし方が模索され、地方移住や二地域居住への関心が高まる中、地域が生き抜くキーワードは「国内回帰」

「田園回帰」「人間回帰」であり、「中央集権から地方分権」「一極集中から多極分散」という考え方への転換が必要ではないかと考えます。全ての方が笑顔にあふれ、夢と希望の持てる「ふるさと喜多方」「わくわくする喜多方」に向け、オール市民で英知を結集し、先人に恥ずかしくない努力をしていきたいと思っています。

プロフィール

- ◆ 面積 554・63km²
- ◆ 人口 4万3559人
- ◆ 世帯数 1万6171世帯

〔将来都市像〕 力強い産業 人が輝く活力満ちる安心・快適なまち

〔まちの特徴〕 風光明媚な山と阿賀川水系の清流の中で培った薫り高い文化が産業を發展させた、風格のあるまち

〔市町村合併〕平成18年1月4日、喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町および高郷村が合併



喜多方市長 遠藤 忠一



〔特産品〕 漆器、桐下駄きりげた、桐工芸品、清酒、みそ、しょうゆ、たまりせんべい、喜多方ラーメン、そばなど

〔観光〕 長床蔵のまち並み、熱塩温泉、バルーン体験、化石発掘体験、三ノ倉高原花畑、日中線しだれ桜など

〔イベント〕 さくら祭り、夏祭り、ひまわりフェスタ、バルーンフェスタ、シテイレガッタ、そば祭り、棚田ウォークなど



豊かな自然条件で育つ農作物

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

豊かな自然の中で進める 新時代へのまちづくり

矢板市は、栃木県の北東部に位置し、東京都心部まで約120kmの距離にあります。人口約3万1000人と小規模な市ではありますが、四季を通じて美しく雄大な自然や歴史・文化とのふれあいを楽しむことができ、自然の観光資源に恵まれたまちです。20万本のレンゲツツジが群生している



幻の滝「おしらじの滝」

「八方ヶ原」や、幻の滝として一躍脚光を浴びた「おしらじの滝」がある高原山を北部に擁し、その麓には県内一の生産量を誇るリンゴ畑が広がる風景を望むことが

できます。

本市では市内を東北自動車道、国道4号、主要地方道矢板那須線が南北に走り、国道461号が東西に走っています。また、JR宇都宮線が市の南北に通り、駅も二つあるため、大変交通の便が良い場所にあります。令和3年3月には本市にとって2番目となる、矢板北スマートICが開通し、八方ヶ原などの観光スポットへのアクセスが大変しやすくなりました。また、市の南北にICがあることで、「道の駅やいた」や、平成31年4月にオープンした「とちぎフットボールセンター」などがあ

安全・便利な公共交通

本市では、観光で訪れる方への魅力度アップはもちろん、市民にとっても暮らしやすく、ずっと暮らしていきたいまちを目指し快適なまちづくりに取り組んでいます。その一つとして、令和3年度から本市の公共交通を「中央部循環路線」「デマンド交通」「地域共助型生活交通コリント号」の3本柱としてリニューアルしました。これは、高齢者をはじめとする市民の皆さまの生活の足として、公共交通空白地域の解消や、病院や商業施設への移動利便性の向上を目指しています。中でも、地域共助型生活交通コリント号は、これまで主に交通事業者や行政が担ってきた公共交通の運行を、地域住民主体で行う新しい運用形態で、



公共交通リニューアルで移動がより便利に

県内初の導入例となりました。このような公共交通の整備により、住民ニーズに応じた安全かつ便利で、きめ細やかな運行を行っていきたく考えています。

新しい人の流れを創る

本市では、令和3年3月に「やいた創生未来プラン」を策定し、日本が目指すべき未来社会の姿として掲げている社会構想のSDGs、Society5.0を踏まえた新時代に適応したまちを創るため、各種施策に取り組んでいます。



地域共創型シェアオフィス「スローワーク矢板」

地方で働くことや、地方のワーカーが地元にとどまるなど、働き方が変化してきました。スローワーク矢板では、本市ならではの魅力的な働き方を提供していくとともに、さまざまな人が集い、地域が活性化していくことで、本市を起点とした好循環を地域に生み出していくことを目指しています。



〔仮称〕矢板市文化スポーツ複合施設完成イメージ図

また、今年度は本県において国民体育大会「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」が開催され、本市では「サッカー（少年女子）」と「軟式野球（成年男子）」の競技が矢板運動公園で実施されま

イルス感染症の拡大に伴いテレワークの普及が進み、首都圏のワーカーが都会の喧騒から離れて地方で働くことや、

本年4月には、「地域ではたらく、つながる、楽しむ」をキャッチコピーに、本市初の地域共創型シェアオフィス「スローワーク矢板」がオープンいたしました。新型コロナウ

や市内経済の活性化だけでなく、人口減少に適応した市民の健康づくりと、多くの人に愛される使い勝手のいい施設作りにも挑戦していきたくと考えています。

また、スポーツツーリズムを推進している本市では、現在、令和元年10月に発生した東日本台風で被災し利用できなくなっている矢板市文化会館と、老朽化が著しい矢板市体育館を複合化し、「（仮称）矢板市文化スポーツ複合施設」の整備を予定しています。この文化スポーツ複合施設は未来技術を織り込んだ施設とすることに加え、地元産木材の建具などを利用し、Society5.0を体現した「未来体育館」として、令和5年度末の完成を目指しています。交流人口の増加

未来を目指して

こうした一つ一つの取り組みを

通じて、新たな矢板の未来を切り拓き、持続可能な矢板市を築いていきたいと思えます。

本市の将来像「未来へ」〜みんなで作る新時代〜を掲げ、豊かな自然を大切にしながら矢板の良さを生かし、さまざまな主体が協力し合い、新時代に適応したまちを創り、本市の未来へつなぐことができるよう、各種施策に取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 170・46 km²
- ◆ 人口 3万1133人
- ◆ 世帯数 1万3260世帯

〔将来都市像〕「未来へ」〜みんなで作る新時代〜

〔まちの特徴〕アクセス向上で観光に立ち寄りやすく、自然豊かで暮らしやすいまち

〔特産品〕リンゴ、イチゴ、しいたけ、コシヒカリ、和牛、地酒、みそ



矢板市長 齋藤淳一郎



〔観光〕八方ヶ原、おしらじの滝、山の駅たかはら、リンゴ団地、山縣有朋記念館

〔イベント〕たかはらやまトライアスロン大会、ともなり文芸祭り、つつじの郷やいた花火大会、やいた八方ヶ原ヒルクライムレース、やいた軽トラ市、矢板市文化祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

子育て世代に住みよいまちは 全ての世代にとって住みよいまち

海津市は、岐阜県の最南端に位置し、西部・南部は三重県に、東部は木曾川・長良川を隔てて愛知県に接し、名古屋市、岐阜市、四日

中市といった東海3県の主要都市から30km圏内にあります。本市中央部を流れる揖斐川以西は養老山地とその裾野に広がる扇状地と平野からなり、果樹園が広がっています。一方、揖斐川以東の地域はほぼ全域が海抜ゼロメートル地帯で、小学5年生の社会科「低い土地の暮らし」の舞台となっており、現在でも輪中の中に水屋が見られます。また、肥



国営木曾三川公園のチューリップ祭

沃な土壤に培われた豊かな農地を生かし、岐阜県を代表する農業生産地域となっています。

子育て世代に選ばれるまちづくり

少子高齢化と人口減少は本市においても例外ではなく、市制施行した平成17年から約8000人も人口が減少し、旧平田町地区では、平野部としては岐阜県初の過疎地域に指定されました。その最大の要因は「暮らしやすさ」「働きやすさ」「子育てのしやすさ」などのさまざまな面で、若い世代、とりわけ「子育て世代」に本市が選ばれずに転出されることであり、都市部だけでなく、ごく近隣の自治体への転出が多いことに強い危機感を持っていました。

そこで、市内在住者の転出の抑制、そして、これまでに市外へ転出した、本市に縁のある若い世代に帰ってきてもらおうと、子育て世代にとって魅力ある施策の充実に取り組んでおります。具体的には、本市に移住した若年夫婦・子育て世代に最大100万円の奨励金を交付するほか、子育て世代の経済的負担の軽減策として、子どもの医療費助成を高校生世代まで拡大、高校生の通学定期券購入費の助成などを本年度より実施しています。



平成30年からふるさと納税返礼品にルアーを用意

また、ハード面においては、「遊び」と「学び」を提供する（仮称）こども未来館」の整備を進めています。令和6年度中のオープンを目指し、こども図書館や遊具を設置するほか、解決力や探求心を磨く学習プログラム、保護者同士が気軽に交流できるスペースを設けるなど、「安心して過ごせる親子の居場所」としていきます。

市内を流れる大江川は、中部地区を代表するバスフィッシングのメジャーフィールドとして多くの釣り人に訪れていただいています。ブラックバスは特定外来生物の指定を受け、さまざまな規制を受けますが、釣りを楽しむこと自体には何ら規制を受けないことから、本市ではバスフィッシングを貴重な財政資源、観光資源として活用しています。



令和3年度の河川清掃は500名を超える参加者が集まった

返礼品に本市オリジナルのルアーを加え、大変好評を得ています。また、本市のネーミングライツ事業では、釣り具メーカーにパートナーとなっていたいただいている公園があり、「アングラーズパーク海津」と命名され、無料駐車場として釣り人に開放されています。

また、Instagramを利用した「海津市バス釣り王決定戦」「アングラー河川清掃」は多くの釣り具メーカーの後援をいただき、ゼロ

予算で本市が主催し、交流人口・関係人口の増加を促しました。このような取り組みを継続することで、地域における迷惑駐車や河川敷のゴミの放置といった問題の解消にもつながっています。

新たなにぎわいの創出

本市から三重県いなべ市を結ぶ二之瀬峠は、ヒルクライマーによるSNSでの情報拡散の結果、期せずして東海地区におけるヒルクライムの聖地とまで呼ばれるようになったことは、魅力が「ない」と思っていたところにも「ある」という気付きとなり、新たなにぎわいの創出となっています。一方で、「おちよぼさん」の愛称



参拝客でにぎわう千代保稲荷神社の月越し参り

で親しまれる千代保稲荷神社は県内有数の観光入込客数を誇りますが、通過型観光となっていること、また、コロナ禍以前から観光客の減少傾向が課題となっています。そこで、観光客に満足していただき、リピーターへとつながられる「選ばれる観光地」に成長させるためには、新たなにぎわいの創出が必要と考え、ホテルの誘致や

プロフィール

- ◆ 面積 112.03 km²
- ◆ 人口 3万2703人
- ◆ 世帯数 1万2377世帯

〔将来都市像〕水と緑と人がきらめく輪でつながるまち 海津

〔まちの特徴〕西にそびえる養老山地、清らかな水をたたえる揖斐川、長良川、木曾川を有する豊かな自然環境と、山・治水、縄文時代の遺跡や貝塚、千代保稲荷神社など歴史と伝統が息づくまち

〔市町村合併〕平成17年3月28日、海



海津市長
横川真澄



津町、平田町、南濃町の3町が合併
〔特産品〕水稲、トマト、キュウリ、イチゴ、メロン、南濃ミカン、飛騨牛、奥美濃古地鶏、うなぎ、なます
〔観光〕千代保稲荷神社、国営木曾三川公園、海津温泉、南濃温泉「水晶の湯」、月見の森、津屋川の彼岸花、行基寺
〔イベント〕国営木曾三川公園チューリップ祭・冬の光物語、今尾の左義長、長良川国際トライアスロン大会

キャンペーンの整備など、滞在型観光の基盤づくりを進めています。令和8年の東海環状自動車道西回りルートの全線開通に向け、あらゆる産業の振興、企業立地の促進につながる施策・事業の推進のほか、眠っている地域資源や魅力を掘り起こすことで新たなにぎわいを創出し、「魅力あるまち」となるよう全力で取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

もっとその先へ 誰もが輝く拠点都市津山を「築く」

津山市は、岡山県の北東部に位置し、県庁所在地の岡山市中心部までは南へ約60km、鳥取市中心部までは北へ約75kmで、山陽と山陰のほぼ中間にあたります。古くからこの地域の政治・経済・文化の中心地として、また、出雲街道・吉井川水系などによる県北交通の拠点として栄え、人口・経済共に県北

最大の都市であります。

現在の原型を築いたのが、初代津山藩主・森忠政です。12年の歳月をかけて津山城を築城したほか、忠政公が設計した城下町は、



津山城 (鶴山公園)

400年以上たった今でも当時の面影を色濃く残しています。このほか、国内2番目の規模を誇る「旧津山扇形機関車庫」といった鉄道遺産も数多くあり、まさに「歴史と文化の薫る城下町」として多くの観光客にお越しいただいております。特に4月の桜の時期には、津山城に約1000本の桜が咲き誇り、本市最大の観光シーズンとなっております。

津山を取り巻く状況・課題

県北の拠点都市として発展してきた本市ですが、近年では人口減少が急速に進み、平成17年の合併以降、約1割の人口が減少しました。また、人口構成比率を見ましても65歳以上が3割を越すなど、少子化・高齢化が加速しております。

このような社会情勢に的確に対応し、住民が豊かさを実感しながら、地域に愛着を持って住み続けられるまちづくりを進めていく必要があり、若者から高齢者まで多様な人材が互いに支え合う仕組みづくりや、さまざまな天災や厄災からのレジリエンスを高めることが求められています。

また、地域資源を最大限に生かし、自立分散型の社会を目指す「地域循環共生圏」や、自分たちのまちに愛着と誇りを持った選択と行動をすることにより、地域経済に好循環を生み出す「ローカルファースト」を実現していくことが重要です。

さらに、まちの将来を見据え、持続可能性を高めるためには、未来を担う人材の育成は避けて通れない課題であります。



中心市街地

四つの重点目標

本市では、平成28年度からの10年間を計画期間とする「津山市第5次総合計画」の下、「安心と幸せを実感できる、活力と魅力あふれるまちづくり」を進めているところであり、このたび令和4年度から令和7年度までの4年間を計画期間とする後期実施計画を策定いたしました。ここでは四つの重点目標を掲げ、目指すべきまちの実現に向けて取り組みを進めてまいります。

一つ目は、「快適で楽しい、住み



津山地域異業種交流会

続けたい街を築く」であります。

人々が「住みたい」と感じるまちは、「住み続けたい」と感じるまちとなるためには、快適な生活を送ることのできる社会基盤や環境整備を進めることが重要であります。

その実現に向け、社会全体のデジタル化の推進、歴史文化遺産の保存活用、災害対策の充実・強化、公共交通機関の利便性の向上、基幹道路網の整備などに取り組んでまいります。

二つ目は、「安心して暮らせる地域共生の社会を築く」であります。

人口減少・少子高齢化による担い手不足や、核家族化が進む中で、地縁、血縁といったつながりの弱体化が進んでおり、支え合う環境を整える新たなアプローチが求められています。高齢者や障害のある方など、全ての地域住民が、安心して暮らし続けることができる地域コミュニティの充実や仕組みづくりに取り組んでまいります。

三つ目は、「持続可能な地域内循環型の経済を築く」であります。

地域経済の再生に向けた取り組みを、雇用創出や所得向上につなげていくための鍵となるのが、「地域内循環型経済」であります。地域内で生み出される付加価値を高め、地域外で稼ぐ産業を振興するとともに、流入した資金を域内で循環させる経済活動を生み出す仕組みが重要となります。

引き続き、域外需要を取り込む企業誘致を積極的に進めるとともに、つやま産業支援センターや地域商社なども連携し、地域内企業の経営力強化に取り組み、キャッシュアウトしない強靱な地域内サプライチェーンの構築に取り組んでまいります。

四つ目は、「教育の充実で未来を切り拓く人材を築く」であります。

人材は地域の将来を支える大切な財産であり、持続可能な社会を構築するためには、地域で活躍する人材の育成が不可欠であります。

本年3月に策定した第3期「教育振興基本計画」に基づく取り組みを着実に推進し、保幼小の連携を図るとともに落ち着いた学習

プロフィール

- ◆ 面積 506・33 km²
- ◆ 人口 9万8127人
- ◆ 世帯数 4万5723世帯

〔将来都市像〕誰もが輝く拠点都市津山
〔まちの特徴〕北は中国山地、南は中部吉備高原に接する、都市と自然が融合する歴史と文化が薫る拠点都市

〔市町村合併〕平成17年2月28日、加茂町、阿波村、勝北町、久米町を編入合併



津山市長
谷口圭三



〔特産品〕横野和紙、作州餅、津山ホルモンうどん、つやま和牛、シヨウガ、小麦
〔観光〕津山城（鶴山公園）、衆楽園、津山まなびの鉄道館津山洋学資料館、阿波森林公園
〔イベント〕津山さくらまつり、津山納涼ごんごまつり、津山まつり、津山加茂郷フルマラソン大会

環境を整え、確かな学力向上に取り組むことで、「自らの将来を自らの力で切り拓くひとの育成」ふるさとに誇りと愛着を持ち、自己肯定感を高め、地域や社会に貢献できるひとの育成」につなげてまいります。

10年、20年後を見据え、住民の皆さまと共により良い津山の未来を築くため、「精神一到」の覚悟で取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。